

1  $\mathbf{R}^4$  のベクトル  $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix}$  のうち,  $x + y + z + w = 0$  をみたすもの全体からなる部分集合を  $V$  とする.  $V$  は  $\mathbf{R}^4$  の部分空間であることを示せ.

2  $\mathbf{R}^4$  のベクトル  $\begin{pmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{pmatrix}$  のうち,  $s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} -1 \\ 3 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ , ( $s, t$  は実数) の形に表せるベクトル全体からなる部分集合を  $W$  とする.  $W$  は  $\mathbf{R}^4$  の部分空間であることを示せ.

3 次のそれぞれの2次元ベクトル空間  $\mathbf{R}^2$  の部分集合は,  $\mathbf{R}^2$  の部分空間とはならない. それぞれについて, 部分空間とはならない理由を反例をあげることにより示せ.

a)  $V_1 = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mid 2x + 3y = 1 \right\}$

b)  $V_2 = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mid x^2 - y^2 = 0 \right\}$

c)  $V_3 = \left\{ \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \mid x \geq 0, y \geq 0 \right\}$

4  $V, W$  がともに  $\mathbf{R}^n$  の部分空間であるとき, その共通部分

$$V \cap W = \{\vec{x} \mid \vec{x} \in V, \vec{x} \in W\}$$

もまた  $\mathbf{R}^n$  の部分空間であることを証明せよ.

5  $V, W$  がともに  $\mathbf{R}^n$  の部分空間であるとき, その和空間

$$V + W = \{\vec{x} + \vec{y} \mid \vec{x} \in V, \vec{y} \in W\}$$

もまた  $\mathbf{R}^n$  の部分空間であることを証明せよ.

6  $n$  次元ベクトル  $\vec{a}, \vec{b} \in \mathbf{R}^n$  と  $(m, n)$  型の行列  $A$  の間の積について

$$A(\vec{a} + \vec{b}) = A\vec{a} + A\vec{b}, \quad A(c\vec{a}) = cA\vec{a} \quad (c \text{ は実数})$$

をみたま. このことを用いて 1 次同次方程式  $A\vec{x} = \vec{0}$  の解全体の集合

$$V = \{\vec{x} \in \mathbf{R}^n \mid A\vec{x} = \vec{0}\}$$

は  $\mathbf{R}^n$  の部分空間であることを証明せよ.